

偉人の學校時代 (二)

グレンサム及ケムブリッジに於け

るニュートン、米 溪

引力の法則を確定して其の名を不朽に傳へ、其の國の智的名譽を、万世に輝かせる偉人の事蹟は世人の遍ねく知る所、唯其の伶俐なる少年時代と其の教育に付ては、則ち別に、吾人の注意を要するものなからんや。

アイザツク、ニュートンハ、一千六百四十二年リンコルン州、グラサムより殆んど六哩なる、コルスターウオースの一邑に接近せる、ウールンブの貴族の邸に生れしか、初め其生るゝや、體驅微少、到底、通常兒に比すべくもわらざりき。

其の學齡に達するに及びてや、其の隣邑、スキ

リングトンとストークなる、寄宿舎なき小なき二學校に送られしが、茲に、讀書、習字及び算術を教へられ、十二歳にして、グランサムの文典學校に送られぬ。

ニュートンは、唯、自己の勝手に振舞ひて、其の學科には、極めて不注意なりしかば、學校の席次は、常に甚だ低位にありき。

彼の位地は、一人を除くの外、其の下位に立つものなかりしかば、一少年、其の通學の途に於て憎惡を以て彼を蹴る、ニュートンは是に於て、直ちに争闘を挑み、互に營域の内に格闘したりしが、遂に勝を得たり。然れとも、此の抗争は、其の後劇しき健闘をなすに至り、互に級中に對峙して相降らざりしが、ニュートン、遂に、獨り其の争に敵を屈せしのみならず、學校最上の位置を占むる

に至りぬ。

ニュートン、學校を出て、間もなく、其の器械的發明の嗜好を表示したり。乃ち其の遊戯場に在る、小さき、鋸、槌、斧、及び其の他の遊具を以て、知る所の機械、及び遊戯に用ひる、巧機の摸型を造りぬ。風車、水時計、自動車（自から座して其の車を遣るもの）の如きは、皆其の小道具を以て造り上げたる所、殊に其の風車の如きはニュートン、屢々、グランサムの附近に在る、風車製造者の働さを、熟視して、其の機械の知識を領得し、以て大摸型を完成せるものにして、其は、後に屢々、グランサムに在る、ニュートンの家の屋上に置かれ、風のまに／＼運轉せる所なりき。ニュートンは、其の學友等と共に嬉戲の仲間に入ることもなく、常に、沈黙寡言、深思の風ある

少年なりしかども、其の寄宿舎の一室に在るや、鑿と槌とを以て勞作の音を絶たず。而して、時に臨みては、彼は、其の少年等に、遊びも亦合理的ならざるべからざるを説きぬ。

彼は又、紙鳶の糸の附け方に關し、其の位置と形の最良法を推究せり、乃ち、其の糸の接けらるゝ點と、其の數と位置との接配を工風し得たるなり。加之ならず、彼は又、三冬の味爽に於て、道を照らさん爲、紙を壘み、提灯を造りしが、竟に之を點して、紙鳶の尾に縛し、夜、之を放揚せしかば、人々驚愕、以て彗星となすものあるに至り。

其の後ニュートン、又其の居室の庭に於て、屢々、太陽の運行を注視せしか、遂に、其の建物の屋根、壁等に木釘を裝し、以て日晷計とし、太陽

の運行を、一時間と三十分とを、其の影によりて知らんとせり。而して、其の計量線は、恰もグラッサムの緯度と適合せることは、彼未だ之を知らざるなり。

然れども、彼の此の業や、實に成功せりと云ふべし、斯くて幾年精密に觀測せし結果、人々の時を知るを得るは、全く其の賜に頼るに至りしかは人呼で、アイザック時表と云へり。其のウールソープの居室の壁に、二つの時表を彫刻せるは、恐らくは此の時に在らんか、其の一は、今、現に、皇室博物館に在り。

(未完)

一の組保育誌 (つゝき)

ふ み 子

一、幼兒一般の特別なる傾向、并に之に對する處

置及傾向の變化と之れが原因と認むべき條項

五十六

三の組 (滿三年より四年までの兒) 時代には在籍幼兒數三十三人なりしも寒さのため、十一月頃より引つゝきて欠席多く、日々の出席平均は凡そ二十人余なりき。従つて保育し易く、幾分か思ふまゝになり、幼兒の各々につきて注意し、かつ導くことも出來、希望をもて二の組 (滿四年より五年までの兒) に移りたり。さて二の組になりては如何といふに一時は實にかなしむべき有様に陥りたり兼ての豫想は全くはづれて只日々消極的に保育することにのみ汲々たりき、而して尙それさへも我力に叶はざりき、そは何がためなるか、四月の初に十二人の新入兒をいれしと、三の組時代に引つゝきて欠席せる兒が氣候の暖かきによつて一時に出席せしとによる(それ等は新入同様の兒なり)